

# 道徳通信かがわ

第45号

令和4年12月12日(月)

香川県教育委員会事務局

義務教育課

## 「考え、議論する」授業 —善通寺市立西中学校 公開授業—

10月17日(月)、善通寺市立西中学校において、「道徳的諸価値について『考え、議論する』授業づくり」を研究主題として道徳科の研究授業を行いました。

### 【公開授業「注文をまちがえる料理店」(善通寺市立西中学校 内海美沙子教諭)】

「互いが存在の独自性を認めること、相手の考えや立場を尊重し、寛容の心をもって接すること」がポイントでした。授業者の内海先生は、「注文した料理と違う料理が提供されたら？」と生徒に問いかけ、「間違っただけを指摘する」「もうその店は利用しない」等、間違っただけはダメという気持ちを持たせて授業はスタートしました。途中、実際の料理店のようすを動画で視聴し、店員、客それぞれの気持ちについて、全体で意見交流をする時間がありました。注文とは違う料理が届いているのに笑顔で対応するお客の様子から、「一生懸命接客してくれている」「誰にでも間違いはある」等、寛容な心をもって間違いを受け入れることが大切であることに、生徒たちは気づき、共感していました。終末の振り返りでは、「友達の間違いを受け入れる」「失敗した相手を責めない」等、学校生活の中で、なかまの間違いや失敗を受け入れようとする気持ちが芽生えました。最後の内海教諭の語りで「私も明日の予定を伝え忘れる等、失敗をすることがあるけど受け入れてくれますか」と問いかけたところ、生徒達は笑顔を見せながらも、「それは困る」と答える生徒が多く、「何でも受け入れることが寛容なのか」という「新たな問い」を持たせる工夫が見られました。



### 【授業後の検討会(義務教育課 主任指導主事 深澤裕幾)】

#### 【考え、議論する道徳の視点から、授業を拝見して】

##### ① 問題意識を持つ場面

→「事前読み」を行うことであらかじめ話し合いたい「問い」をもって授業に参加していた。また、「朝道徳」を通じて、なかまの多様な考え方に触れる機会が増え、「もっとなかまの意見を聞いてみたい」という姿勢で授業に臨んでいた。

##### ② 自分との関わりで捉えて考える場面、多面的・多角的に考える場面

→読み物資料、動画でお店の様子を紹介し、「なぜ、このお店にいる人はみんな笑顔になっていたのだろう」「もし自分だったら注文を間違えられた場合、どうする」という生徒の思考を揺さぶる教師の発問から、活発な意見交換が行われた。

##### ③ 振り返り、生き方についての考えを深める場面

→授業前、授業後の考え方を比較できるよう、事前アンケートや板書を活用して考えを整理する時間を確保し、「寛容とは」という難しい課題に向き合う姿が見られた。

#### 今後の道徳教育の推進に向けて【相互理解・寛容】

「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方を理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。」

自己肯定感が低い → 間違いも一つの考え方として受け入れる仲間づくり

他を思いやる心が十分育っていない → 寛容の心をもって接する(場面づくり)

適切なコミュニケーションが苦手である → 「間違ってもいいんだ」という安心感、居場所

道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育

→学校や教師が明確な意図を持った学級経営、場面づくりを行う。